

2016 年度第 1 回ラインホールド・ニーバー研究会報告
『マーティン・ルーサー・キング・ジュニアの「夢」演説と説教』
森田美千代氏（聖学院大学大学院客員教授）



上段：森田美千代客員教授 高橋義文研究所所長・研究代表

2016年7月25日（月）聖学院本部新館2階会議室において、2016年度第1回「ラインホールド・ニーバー」研究会が行なわれた。聖学院大学大学院客員教授の森田美千代氏に、標記の題にてご報告いただいた。参加者は16名であった。以下に概要を記す。

マーティン・ルーサー・キング・ジュニアの言う「夢」や「アメリカン・ドリーム」は、一般的な「アメリカン・ドリーム」理解とは異なる。それは、キングの「夢」が、一貫して、アメリカ独立宣言と憲法、そしてキリスト教（聖書）から成ることと関連している。そのキングのぶれることのない一貫性について、キングの行なった演説・説教を元に森田氏は論証を進めた。

キングが「夢」や「アメリカの夢」という言葉を使い始めたのは、1950年代末、とくに1959年5月11日に行なった宗教指導者会議での演説からである。本研究会では、その演説の説明から始まって、「夢」に関する10回の演説・説教についての考察がなされた。その中には、1963年8月28日の、キン

グの最も有名で、かつ構成面からも内容面からも最高といえる「私には夢がある（I Have a Dream）」演説が含まれた。また、暗殺前夜の、生前最後の演説となった1968年4月3日の「私は山頂に登ってきた（I've Been to the Mountaintop）」演説は、「アメリカの夢」を語りつつも、自らの死を予感する遺言のような内容であることが報告された。

キングの言う「夢」は、前述のように、アメリカ独立宣言と憲法の理念、そしてキリスト教思想に、一貫して由来しているが、そのことをキング率いる公民権運動により具体的に敷衍して言えば、非暴力をもって、人種隔離や人種差別を取り除き、自由と正義が輝く夜明けへ抜け出すことである。しかしキングは、そのような「夢」は「まだ実現されていない」ことを繰り返す。けれども、キングは諦めない。1965年の「アメリカの夢」説教よりのちにみられるのが、「夢から悪夢へ、にもかかわらずもう一度夢へ」という循環である。

独立宣言の文言が全くないという共通点が見られる「打ち砕かれた夢（Shattered Dreams）」説教と「実現せざる夢（Unfulfilled Dreams）」説教によると、「人生は打ち砕かれた夢のたえざる物語」であるといえるが、この2つの説教は他の演説・説教と異なることから、今後の研究課題にしたという森田氏の言及で報告は終了した。

報告後の質疑応答では、キングがリンカーンやアモス書にたびたび触れることと「神の正義」との関係、キングの「夢」と黒人の経済的地位向上との連関、また、ニーバーの影響を受けたキングについて、といった議論が交わされ、盛況のうちに終了した研究会だった。

（文責：鈴木 幸 [すずき・みゆき] 聖学院大学
アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科修了生）